



大分県・耶馬溪で田植えをしました。2003.6

定例委員会報告

フレンズ国際労働キャンプ (FIWC)関東委員会

2003.6

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)

関東委員会

定例委員会報告 2003年6月号

2003年6月21日 東京・石神井にて

参加者：藤澤真人、佐藤正明、奥村浩毅、
松長麻美、宮本久美子、君塚隆太、
笠眉彦、茂木亮、丸岡栄治、
原田健一、武藤綾子、山川将弘、
板谷安子、伊藤祥江、鳥居厚志、
西尾雄志、青木淳、小野浩平、
小坂仁都美、田中祐也、
パビットラ・バジュラチャリヤ
21名

もくじ

中国ワークキャンプ	1
フィリピンワークキャンプ	2
韓国ワークキャンプ	2
長島愛生園ちんどん	2
国分寺ちんどん	2
耶馬溪・田植え	4
ネパール報告会、カヌスの会	5
ネパールキャンプ時期リーダーが語る..6	
バンガラ・ネパール合同フリマ	7
中国駐在員「ゴーイン」僚太郎通信	8



中国リンホウ村で
ワークキャンプをしませんか？

今年の夏に中国のハンセン病療養所リンホウ村で中国の学生と共にワークキャンプをします。この村では、今までに2回キャンプをやってきました。キャンプ内容は、第1回目のキャンプではトイレを作り、第2回目のキャンプでは長屋と各部屋ごとに水道を作りました。今回第3回目は、前回建てた長屋のひさし部分が短く、日中になると日差しが部屋の中まで入ってきて室温が30度以上になってしまい部屋で過ごすことが困難と言う村人の訴えがあったためひさしを伸ばすキャンプをしたいと思います。

またこのキャンプでは、中国の学生と共にキャンプを作っていくことを考えています。ワークキャンプに、中国に、ハンセン病に興味がある方は是非一緒に中国リンホウ村でワークキャンプをしましょう！

④情報・・・現在前キャンパーの原田僚太郎君が駐在員としてリンホウ村に住んでいます。彼は中国で中国学生によるハンセン病療養所ネットワーク作り成功に向けて猪突冒進しています。是非モグネットの中国・リンホウ村駐在員レポートを読んでみてください。

モグネット：http://www.mognet.org/

中国ハンセン病事情

中国では、1960年頃からハンセン病患者者に対し町から離れたところに病院や村を作り隔離収容していました。1950年～2001年までに50万人の発病例があり、現在では31省56民族全てにハンセン病患者が存在しています。特に広東省の患者数は多く、2002年には約6000人の人々が陽性患者として確認されています。

期間：8月17日～8月31日

ワーク：前回のキャンプで作った長屋のひさしを伸ばす。

村での家庭ワーク などなど

キャンプ費用：4万円（飛行機代別）

④藤澤真人

キャンプの参加は以下までご連絡を...

④2003年夏キャンプ総リーダー

吉田亮輔





日程：2003年8月25日〜9月13日の20日間。

ワーク地：フィリピン・レイテ島、ナガ村
ワーク内容：ウォーターシステムの設置

参加人数：20名

参加費用：13万円

今回のワークではウォーターシステムを作ります。

おおまかな工程は

- 1：水源に取水タンクを作る。
- 2：取水タンクからナガ付近までパイプをつなぐ。
- 3：タンクの場所を決めタンクを作る。
- 4：蛇口を作り、その周囲をセメントで固め排水溝を作る。

生活に関しては基本的には、ナガ村の民家3棟をかりて、そこを拠点にして滞在します。男女は別で、食事、ミーティングの時に全員が集合します。3週間の滞在のうち、約1週間はホームステイの形態をとります。日本人が1〜3人のグループに分かれて、ナガ村の各家庭にホームステイをするのです。現地の生活を、じかに肌で感じとってください。

食事：ホームステイ中は各家庭で食事をとりませんが、通常は日本人が集まって、朝晩の食事はとりまします。食事係を日替わり

で決めて、当番の人は買出しに行つて、その日の夕飯と次の日の朝飯をメンバー分作ることになります。

キャンプ中にエンタメ（エンターテインメント）活動を予定しています。何をするかというのはまだ決まっています。いえ、あえて決めていません。とにかくキャンプと現地の人が一緒に楽しむことができればそれでいいのです。歌つても踊つても走つてもなんでもかまいません。みんなでキャンプを作つていこう。というわけで、参加者みんなにアイデアをだしてもらいます。そんなでもって企画してもらいます。

今回のキャンプは、エンタメにホームステイと新しい試みがあり、またワークに関しても比較的大きなプロジェクトで、現地のニーズにまさに直結したものです。ほんとうにたくさんの人を巻き込めそうな要素盛りだくさんなので、おもしろいキャンプになりそうだと、いまからワクワクしてしまします。今回のテーマである、巻き込みがどこまで可能になるのか、チャレンジです。

◎ 2003フィリピンキャンプリーダー 神谷慎司



韓国キャンプの日程が決まりました。

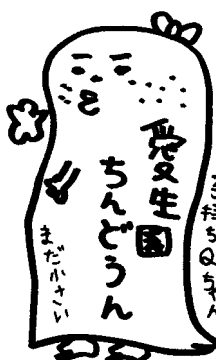
8月5日〜15日です。数回説明会を開き、今のところ11人が参加予定で4日に第1回準備会を開く予定です。13日には勉強会として全生園のハンセン病資料館を森元さんに案内していただく予定です。

一時はキャンパーが2、3人しか集まらないのでは・・・と落ち込みまくる日々が続き、定例会では「平泣き状態」などともらし、皆さんにはげまされ、なぐさめられ、心配をおかけしくつてしまいましたが、こうしてそれなりの人数が集まり、ほっと一息というところです。心配していたSARSも（一時的かもしれませんが）落ち着きを見せ、これでもうよいいな心配をせず、参加者にも、キャンプ地の人たちにとつても良いキャンプにできるよに準備に取り組めるようになりまし。めでたしめでたし。また、今年のキャンパーは女子勢強し？の模様です。

説明会の時点で女子全員が既に個性派の片鱗を見せていました。おそらく時間が経つにつれ男子勢も本性を現してくるでしょう。負けるな男子！

というわけで、今年も生命力の強そうなキャンパー揃いで楽しみながりの韓国キャンプです。

◎ 松長麻美



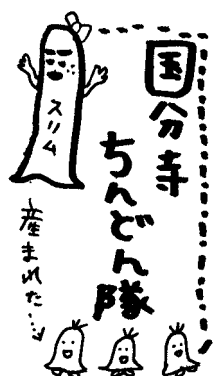
7月31日、岡山のハンセン病療養所長島愛生園での夏祭り今年もちんどん隊をやります。

参加申込は一応締切しました。今回は前日の準備や翌日の片付けに参加できる人を優先するという事で人数は昨年よりも少なくなっています。宿泊先の関係もあり、30人位の規模になるかと思っています。関東からも数名が参加予定です。

また練り歩きをどうしていくかについては、これから参加者で話をして決めていきます。

今後、関東では国分寺市障害者センター夏祭りのちんどん隊と練習を一緒に行っていきます。

今回、参加できない方も是非練習に来て雰囲気を感じて下さい。関東でも清瀬にあるハンセン病療養所多摩全生園での秋祭りに今後、参加していけたらと考えています。



今年、4月にオープンした国分寺市障害者センターは知的障害者の方達や身体障害者の方達が利用されている施設です。昨年、一昨年と長島愛生園でのちんどん隊に参加した武藤綾子さんが職員として働いています。

7月27日（日）は『第1回センターまつり』で、その開会前（9時頃から10時頃）に近所を練り歩いて宣伝したりセンター内を回つてほしいとの要望が武藤さんからありました。

関東のチンドンメンバ何人かで話し合い参加する方向で話を進めています。現在、メンバーを大募集しています。楽器の弾ける人、弾けない人もOK、踊れる人、踊れない人もOK、ちんどん隊を見てみたい人など興味のある方は是非とも参加して下さい。ちんどんの後のまつりのボランティアも募集中です。

今後、毎週日曜午後3時より練習5時頃よりミーティング&慰労会の予定（場所は井の頭公園や飛鳥山公園を予定！）

愛生園ちんどん隊連絡先

◎ 青山哲也

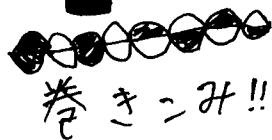
国分寺ちんどん連絡先

◎ 原田健一

★ PHILIPPINES ★

THEME: 『巻きキャン』

8月下旬～
3週間



巻き込み!!

すべてを超えて
交じりあう(´▽`)

異文化交流の渦
ここに巻き巻き(´▽`)

説明会: 6/24 PM 6:30 ~ at SEIKEI UNIV.

7/2 PM 6:30 ~ at WASEDA UNIV.

※ 下見後の最終説明会になります
現在下見中 "レ行島 プルグエラ地区" 6/20 ~ 29

予定 → ★ ホームステイ (初挑戦!!)

現地により近く、より深く★

★ ワーク

村の中心地で、多くの人々が利益をもたらす公共事業★

★ インタ×

一人一芸を持って コミュニケーションツールとして★

どう考えても、**楽しい**がモットー!!

Happy!!



あなたの「きっかけ」になることを祈りつつ(´▽`)

今年の夏は絶対フィリピンへ



詳細は TEL、MAILにて 問い合わせ下さい。
田中 祐也

耶馬溪 田植え

6月3日～14日、大分県の耶馬溪にあるF・W・C・O・Bの鈴木健久さんの農場で田植えをしました。耶馬溪では5月の連休中に田植え準備のキャンプをしました。が、その時に集まった有志が呼びかけて田植えを手伝いました。F・W・C・関西のキャンパーのほか、関東からは藤澤真人、宮本久美子、茂木亮が参加しました。今年には不耕栽培という田んぼを耕さずに雑草の生い茂る中、できるだけ自然に近い状態で稲を育てるという方法で、4枚の田んぼを手植えて仕上げました。

よい具合に田んぼに水が張らなかつたため、ポンポン植えていくことができず、土を掘り起こしながら植えていきました。想い描いていた田植えのイメージとは違いましたが、これもおもしろかった。

ほかには、玉子の出荷や、風呂のための薪を山から採ってきたり、みんなで虫を見に行ったり、すべてが楽しい時間を過ごしました。

いつも私達を受け入れて下さる鈴木さん一家と耶馬溪のみなさんに感謝します。

*

今回の耶馬溪で、キャンパーによる自動車事故がありました。その際の対応に



問題があったため、後日F・W・C・関西委員会と話し合いをもち、関東から藤澤、茂木の2名が参加しました。F・W・Cという集団として集まりを持つのであれば必ず責任者を決め、外部とのやりとりに対しても責任の所在を明確にして活動していくことを望みます。今回の教訓を今後ワークキャンプを運営していく上で生かしていくべきだと思い、以下に6月22日に奈良・交流の家で話し合われたことのまとめをF・W・C・関西委員会の定例委員会報告より転載します。

◎茂木亮



6月22日の話し合い

(交流の家)

6月7日の夜、キャンパーたちで近くの温泉に行った帰り、車の事故を起こしました。同乗していたキャンパーは怪我をしました。現在快方に向かっています。この事故で、ガードレールと民家のブロック塀を破損しました。

今回の事故は無理な運転が原因であったこと、結果的に警察に連絡するのが遅れたことなど対応に問題があったため、このことについて6月の定例委員会の翌日に話し合いをもちました。確認事項を以下にまとめます。

◎運転者の責任として、今後は無理な運転をしない。事故への備えをする。

◎現場に居合わせたキャンパーの責任として、運転者に対して安全運転を促す。事故の時、当事者は動揺しているの周りのものが警察に連絡するか、連絡するように当事者を説得する。

ロマチック ホタル



◎集団として定例委員会や定例委員会報告で田植えの募集をしたにもかかわらず、責任者を決めず個人参加のような形をとった。そのため、「キャンプに参加する」という意識をもたずに参加した人が多かった。今後はどのような活動でも責任者を決めるとともに、参加者がそれぞれ自分の責任を自覚して活動する。

◎今回はF・W・C・関西委員会の責任者である委員長に報告が遅れた。すぐに報告していれば委員会（ワークキャンプ）として適切な対応ができた可能性がある。今後は活動について常に委員長に報告する。

今回の耶馬溪のキャンプはもちろん、最近の定例委員会や各キャンプで、キャンパー同士のなれあい非常に目立ちます。自由とは違えた個人の勝手気ままを許



容しすぎる面が強くあったと思います。私たちは何のために活動しているのかを自覚することが必要だという認識を共有していました。

また、これらのことを、普段の定例会やキャンプの参加のしかたに反映させようと話し合いました。

◎西村麻里 F・W・C・関西

ネパールキャンプ報告会

7月29日(日)、早稲田大学ポランティアセンター(WAVOC)にて、3月に開催されたネパールワークキャンプ@デューリシエーニ村、の報告会が行われました。

この報告会は、WAVOCが夏に主催するネパールでの活動に先駆けての勉強会でもあったので、早稲田大学の学生も6名ほど迎え、F・W・Cの関係者しか来ないような従来の報告会とはまた違った実りの多いものとなりました。

ごはんまりとした会場がよかったのか、終始和やかでアットホームな雰囲気では進められ、参加者には好評でした。

当日は休憩の時にふるまうカレーを用意する「カレー部隊」と、会場を整えておく「普通部隊」とに別れ、わざわざ足を運んでくれた人に少しでもたくさんさんのネパール、そしてネパールキャンプを感じてもらおうと、てんやわんやで準備しました。

その甲斐あってか、発表後にはその早稲田の学生からいろいろな質問が投げかけられ時間がたりなくなるという嬉しい悲鳴もあがり、いい意見交換の場にもなったのではないかと思います。

また、もう一つのメイン、垣見さんの講演会も大成功で、垣見さんは自身のネパールでの10年間の活動をスライドを交えな

がら楽しく紹介してくれました。ネパールでは生き生きしている垣見さんも、日本にいると人が多くて疲れるらしく、「このあたりでもう垣見さんはネパール人化していることが伺えます。」「日本にいるときの自分は、干物みたいなもんなんです」と冗談をいって笑わせてくれました。

そして更に森元さんも説明会にいらして、垣見さんと森元さんの夢の共演となりました。森元さんはネパールでのハンセン病についてすこしお話をしてくれました。

垣見さんのお話の1時間はアツという間に過ぎてしまつて、惜しまれながらの閉会となりました。

キャンプから3ヶ月が経つてしまいましたが、ちゃんとこうして立派な報告を皆さんの前ですることができてよかったです。献身的に協力してくれた茂木さん、西尾さん、藤澤さん、鳥居さん、どうもありがとうございました。そしてこの報告会でカンパをいただきました方々、封筒や写真を購入してくれた方々、本当にどうもありがとうございます。

今までにフリマやカヌスの会、カンパなどであつめられた10万円で、当日垣見さんに借金を返済することができました。さらに発覚した赤字もありましたが、そ

れはキャンパーの村での飲食代ということで、自分たちで支払うことにしました。今までたくさんのカンパや協力をいただきまして、ほんとにおおおおおうにありがとうございます。

ネパールキャンプ、赤字脱出です!! けれども、今後も次回のキャンプ費を集めたり、建てた学校の支援にまわしたりするためにフリマやカヌスの会第二弾も随時開催していきたいです。

◎宮本久美子



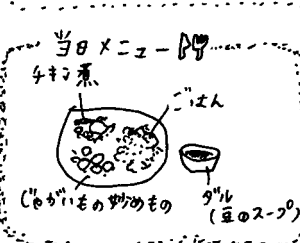
あの報告会の日...もつと時間があれば... 垣見さんに あんなこともこんな事も聞けたのに...

というそのあなたに緊急速報 7月10日 @新宿西口集合 6時から 垣見さんと一緒にご飯を食べながら、いろいろな話を伺います。

◎山川雅弘

ネパールカヌスの会 満員御礼

・カヌスの会 説明・
「カヌス」とは、ネパール語で「食べてください、どうぞ」の意味です。ネパールでは、「後は御飯で表現する」というように、食事の席ではホストの人からの「カヌス カヌス」という言葉で 牛乳も もてなされます。今回は、来客の方には 会費3000円を払ってもらい、ネパール料理を「カヌス」の準備でござい、その会費から経費を引いた分をネパールキャンプのカンパとして頂くというステキ企画でした。

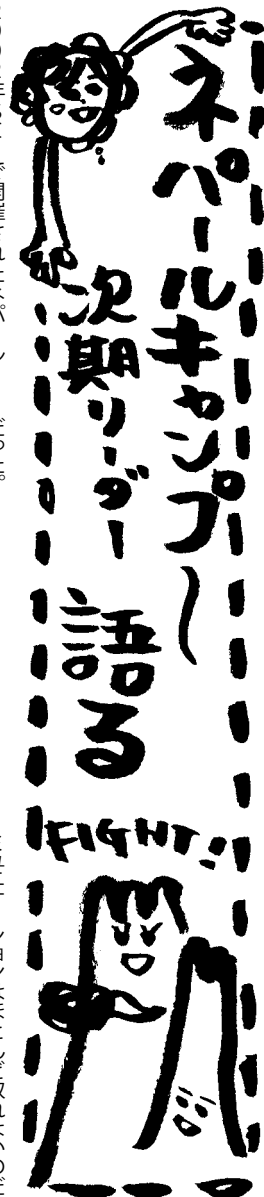


スーパーお礼がたよ!! 参加者なんと18人!!!! Thank you!!!!

熱烈感謝

カンパ金は ナナナ ナントツ!! 47000円だ!!

この収蓄は、前回キャンプのワーク費の赤字分に使用させて頂きます。本当に ありがとうございます。さらに、当日 余計にカンパして下さい、笠さん、西尾さん、君塚さんも、大々々感謝。定例会次々にとどまらず、その後もみんなで 食べて楽しんでます。またやりたいですヨロ



2002年SCで開催されたネパールティミ村でのキャンプに参加し初めてネパールという地を踏んだ。

正直、初めは軽い気持ちで参加した。どうせ春休み暇だし旅行でも行きたいからついに行ってみようかな、程度だった。

前から本などを読んでアジアというものにとっても興味はあった（日本もアジアだけ）が、特にネパールに書いて知っていたこともなければ強い関心もなかった。

そんな気持ちのままネパールについて私はびつくり仰天した。空港に着くとタクシীর客引きに囲まれ、いざタクシーに乗ったと思うとそのタクシーには窓がない、道には信号などなく人と一緒に牛が歩いている。何を見ても面白くてまるで子供の頃に遊園地に行ったときの気分



だった。

キャンプ地の村についても驚きの連続で歩いている人の格好や食事の仕方やトイレの使い方、初めてみる光景や体験することばかりでそのすべてが面白く興味を持続した。

キャンプが始まりネパール人と共に汗を流した。もともとネパールについているんな事を知りたいと私は必死になつてネパール人に話しかけた。またネパール人もそんな私に興味を持ったのかおかしな奴だと思つたのか、積極的に話しかけてくれた。

そんなこんなでキャンプは終わり一年が経った。気づいたらまたネパールにいた。今度のキャンプ地は首都カトマンズから遠く離れた山奥の村ドゥリシエニ。電気もガスも通ってなくもちろんテレビもない。車も入れない。そんなないない尽くしの村だった。

ワークが始まり私は愕然とした。どんなに私たち日本人が一生懸命働いてもネパール人の力に歯が立たない。大工の人や男の人にはもちろんだが、村のお母さんたち子供たちにも笑われる始末。それでも村の人は「オーケーオーケー、ビスターリ、ビスターリ（ネパール語でゆっくりという意味）」と笑顔で言ってくれた。村の人は英語が話せないの言葉で「コ

ミユニケーションはほとんど取れないのだが、作業中笑いが絶えることはなかった。

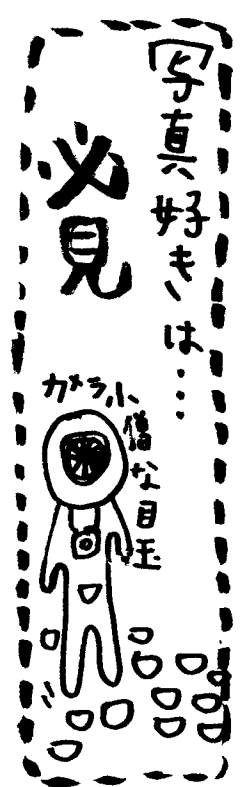
特に働き者でいつも仕事を手伝ってくれたバンシンカムという10歳少年がいた。彼はほとんど毎日ワークに参加し小さな体で誰よりも働いた。作業中「どうしてそんなに働くの?」とたずねたら「これが自分たちの村の学校になるからだ」と当たり前のように彼は答えた。

ないものだらけのこの村には笑顔や優しさがあふれていた。人を感じる温かさ、大切ないろんなことを教えてくれた。しかし同じくらい問題も抱えていた。食料の問題、医療の問題、教育の問題、きつとあれば足りなくなっていくところ。私は今ネパールが大好きだ。そしてネパール人のことが大好きだ。

「君たちが学校を建ててくれて助かった。本当に感謝している」と何度も言われた。しかし本当に助けてもらったのは自分のほかかもしれない。彼らと一緒に過ごすことでいろんなことを感じていろんなことを教えてもらった。そんな彼らに私は感謝している。

私の人生を変えてくれた彼らにこれから少しでも恩返しできたらいと思っている。

◎ 山川雅弘



第2回ネパールキャンプに参加した、兵庫県出身の小坂仁都美です。趣味で白黒写真をしていてキャンプ中、ネパール滞在中にたくさん写真を撮りました。

◎ 小坂仁都美

6月29日の報告会でネパールの写真・ポストカードの展示・販売をします。売上金はネパールキャンプカンパになります。気に入るものがあれば是非お買いあげください。

<http://www.eonet.ne.jp/~norain-norainbow/>



© Kosaka Hitomi

緊急提案

「れいご」キャンプ

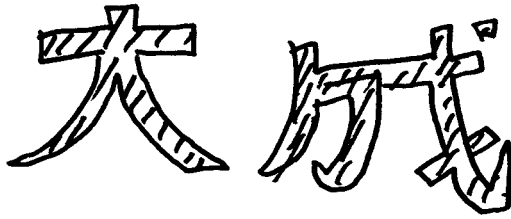
フィリピン、ネパール、韓国、中国、バングラ等、キャンプ間同士、仲おつまいい。今日この頃、是否!これを機会に、全てのキャンプに参加できるように、其間を工夫してやりましょう!流れのキャンプになろう。

フィリピン ネパール 韓国

提案者: ゆうや (フィリピン)

バンブラ♡ネパール 合同フリマ

もちろん
.....



big success!

だいしゅーにー

TOKYO-JAPAN、前回定例会報告でもお知らせした6月15日
父の日に開催されたバンブラキャンプフリマは、急きょネパールキャンプと
合同で行われることになり、売上3万円を超える大成功を収めることが
できました。当日は雨が心配されていた中、約20人程のメンバーが
集結。にぎやかな売場で楽しくフリマの時も過ごしました。
フリーマーケット活動はキャンプの資金集めという主旨もありますが、キャンプ
に参加していることのある人間同士が、しかもバンブラ、ネパールという枠を
越えて会うことができる場としてもとても重要です。中には1年
以上ぶりに久しぶりに会った人たちもいたようです。今日は合同フリマ
ということになりましたが、これから「合同」という言葉が key word
になってきそうです。他キャンプ間同士の交流も深め、新に
人と人とがつながりを持つれば、相乗効果が生まれ、そこから
何か新しいことが始まる予感を感じさせます。合同フリマは、
そんな潜在性を秘めた活動であった、という思いを
抱かせずにはいません。これからにも乞うご期待。
報告；とりい あつし



東京：では、最近の近況を…。何かつかったこととかある？
僚太郎：一番つかったこと？うーむ。そこまで究極につかったことはないな。夜、一人の時かな。村人が寝静まったとき、一人で静かなリンハウにいと、さびしい。酒とタバコに依存する。
東京：じゃあじゃあ日々の楽しみは？？ 日本人の考えのおよばない楽しみとかある？
僚太郎：赤帽の曾さんや蘇さんと焼酎を飲むのがアツイね。赤帽と飲むとお互い笑う、笑う。あとは日記レポート（猪突盲進）書いたり、ハンダ通信を訳したりも楽しいな。
僚太郎：あ、潮州語が通じた瞬間もアツイ。
東京：結構中国語は喋れるようになった？
僚太郎：どうだか。普通話（中国の共通語）と潮州語が混じってる。普通話でしゃべろうとすると、潮州語ナマリがあるって笑われることもある。
東京：え？？？ ナマリが！ かなり 通だね
言葉が通じないと大変だね。 でももう乗り越えた？？
僚太郎：いや、ちょっとした言葉だよ。
「めんどくさい」とか、「寒い」とか。
乗り越えたとは言えない。
東京：しかし？？ どんな手をこうじているの？？
僚太郎：ときどき話し相手がほしくなる。おれ、結構ひとりであるのが好きだったんだ、日本では。今はあんまり好きじゃない。そんなときは学生たちに会いに行く。「村での活動の話し合い」と称して。村人とはとことん話すことは言葉の壁で難しい。
東京：でもそれでどんどん 学生も心をひらいていくんだろうねー！！ ナイスだなありようちん
僚太郎：あ、でも最近は紙とボールペンなしで村長とちょっとした話ができるよ☆
東京：お！！ 他に何か話したいことある？？
僚太郎：学生のハンセン病支援ネットワークのこと。
東京：よー—————し こい！！
僚太郎：潮州のリンハウ村は地元の韓山師範学院が、ヤンカン村は広東商学院、キナン大学、音楽大学、保母さんの学校が支援しよう。ヤンカン以外の村にも6日に学生といってくる。ネットワークの可能性がみえはじめたか！？
東京：おお！！！！！！ みえたみえた 私にはみえる！
僚太郎：ヒヒヒ。最初はムカンシンかに見えた学生たちが積極的に関わるようになるのを見るのは楽しいよ。
東京：おお！ さすがりようちんだ
りようちんの力が大きいね
学生を誘う時に気をつけることとかある？？
僚太郎：おれは学生を村に誘ってるだけ。村人の魅力が学生を変えて、彼らを村の支援へと動かしてるんだ。
気をつけること？うーむ。けっこう強引に話をもっていく。
東京：ゴ—ー—イン？？ GOOO INだね！
僚太郎：うまいことゆうな。村に来れば、村を見れば、彼らの気持ちが大きく動くことはわかってるから、とりあえず強引に來させちゃう（笑）。
まさに go in! だな。二つの意味で！
やべ、ゆかねば。ナース、ナース☆
（この後 僚太郎君は香港のナースと合コンです（会議と本人は言い訳する）
東京：は——ん やぶれたり・・・ 健闘を祈ります・・・
僚太郎：ヒヒヒ。おう、謝謝。好、好。再見、再見☆
東京：ナースつないでおいってください BY 小野浩平
僚太郎：こぶちゃん分はないよ☆

中国駐在員 バイン 僚太郎通信



ネパールキャンプカンパ

ネパールキャンプへのカンパを以下の
方々からいただきました。
本当にどうもありがとうございました。

森元美代治、藤澤真人、君塚隆太、茂木亮
笠原彦、西尾雄志、青木淳、榎原利一郎、
島居厚志（敬称略 順不同）



FWC 関東委員会の年会費

引き続き、年会費、中国・ネパールワー
クキャンプ、中国滞在員へのカンパを募
集しています。よろしくお願いします。

年会費は3000円です。振込みは以下
のどちらかの口座にお願いします。

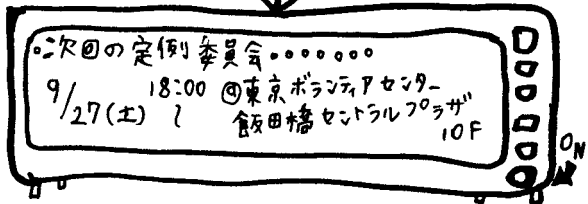
※領収証の発行を希望される方は、その
旨お知らせください。

○郵便振替 口座番号 00170-2-565117

加入者名：FWC 関東委員会

○郵便貯金 記号 10120 番号 62574261

口座名義：FWC 関東委員会



マグネット

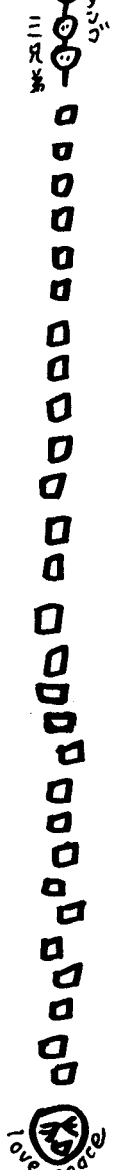
www.magnet.org

FWC 中国駐在員・原田僚太郎のレポートを連載開始



定例委員会報告
2003年6月号
2003年7月2日発行
フレンズ国際労働キャンプ（FWC）
関東委員会
委員長 藤澤真人
編集：茂木亮、宮本久美子
編集協力：藤澤真人、奥村浩毅、小野浩平、
松長麻美、佐藤正明

※PDF版では電話番号やメールアドレスなどの連絡先を掲載していません。お問い合わせは以下までメールにてお願いいたします。
web@magnet.org





定例委員会報告

フレンズ国際労働キャンプ
(FIWC)関東委員会

2003.6 別冊

「あんたは、万が一のことって考えてるの?」

「あんたは、万が一のことって考えてるの?」
母はいつも私に問う。こもともである。

『こもともだ』と考へ出したのは、昨年私がリーダーを務めたときだ。

それまでは、1人で海外に行くのにもためらいもなかった、なんとかなるものだと思っていた。様々なトラブルに巻き込まれても、無事に帰ってきていた。どこかで、自分だけは大丈夫だと高を括っていたのだろう。

完全なる平和ボケのせいかもしれないし、それは本当に幸せな事なのかもしれない。安心、やはりこれは必要不可欠であろう。私達(現地の人たちも含めた)が生活する上で、これがあるからこそ挑戦ができるのではなからうか。

『無事で何より』まさしくその通りであり、キャンプを終えて参加者が日本の友だちに『楽しかった』と話し始めることで、ようやくキャンプは成功なのである。

だから、いくら学生主体の活動であろうと、締めるところは一つ締めねばならないのではなからうか。

私が考えるに次の二点は確実にしておいた方がよいと思う。この時世、テロやSARS、危険があるということは周知の事実だが、まず、その点はきちんと忠告し、本人に了承を取ること。そして、なおかつ保険には強制加入させること。



今現在調査中であるが、国内のボランティア活動では、社会福祉協議会を通じてボランティア保険に加入させること。ボランティア保険は国内の大抵の活動に保険が利く。一番安いもので年間300円、最高でも700円であり、一年間有効(毎年4月1日更新要)である。この保険の場合、個人でも。任意団体でも、NPO法人でも、誰でも可能である。

また、現在問い合わせ中だが、国外の活動に対して保険を受けられるかどうかという問題もある。かつては傷害旅行保険のみで対応してきたが今後どのようにするべきか、もう一度検討してみる必要があるようだ。

これは願望であるが、せめて法人化している団体であれば労災扱いになるとか、スポンサーをつけるというのも一つの手であろう。

フィリピンキャンプも10度目を迎え、今回は本当に面白くなりそうである。だからこそスタッフの苦勞もよくわかれし、期待ものすごくある。

責任の所在だけでもはっきりさせておけば、煩わしいことナシに、活動事態もスムーズにいくと考えている。

いつまでも「なーな」にさせておいてはならないと思うので、皆さんどしどし、お問い合わせください。よろしく願います。

◎ 田中祐也

保険について

国内外でのボランティア活動に関する保険について、F・W・C 関西の柳川義雄さん(保険代理店)に話を聞きました。

現状では国内と海外での活動すべてをカバーするものがないため、それぞれ契約することになります。

国内での活動(ボランティア保険)

国内でボランティア活動中の、自身のけがに対する補償と賠償責任を負った時の補償に對して支払われます。1名当りの年間保険料は300〜700円と比較的安価で、各地の社会福祉協議会を通して加入の手続きができます。団体に対して賠償責任が及んだ場合、NPO法人でない任意団体は、補償の対象とならない。

海外での活動(海外旅行傷害保険)

海外でのボランティア活動に関しては、海外旅行傷害保険で対応する。傷害や疾病等の治療費用だけでなく、賠償責任が個人に及んだ場合にも補償の対象となるが、あくまで個人での契約となるため、団体に対して補償の対象とならない。

国内、海外、どちらの保険も個人の治療費や賠償責任をカバーすることはできるが、団体としての賠償責任を考えると、他の保険も考えなければならぬ。近年はNPOが増加し

たことにより、対応できるものがあるかもしれない。(引き続き、要調査)

◎ 茂木亮

キナム&まり結婚パーティ

8月20日に奈良の「交流の家」で西村麻理さんとハン・キナムさんの結婚パーティをひらきます。私は前日の関西定例会から参加するのですが、一緒に車で行く方を募集しています。もし行く方は藤沢真人まで連絡下さい。

◎ 藤沢真人

定例委員会報告

2003年6月号(別冊)

2003年7月9日発行

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)関東委員会
委員長 藤沢真人

執筆: 田中祐也

4コマ: 宮本久美子

編集: 茂木亮

※PDF版では電話番号やメールアドレスなどの連絡先を掲載していません。お問い合わせは以下までメールにてお願いいたします。
web@magneto.org

ネパールのおいしいお酒「ロキシー」4コマ

